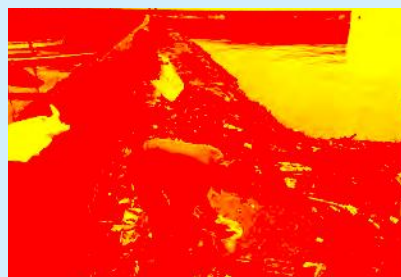


「地域から、川から、海から
ごみをなくすために、私たちができることで、
美しく恵み豊かな瀬戸内海を未来へつないでいきましょう」



海岸清掃活動

地域の住民やボランティアの方々により、清掃活動が行われています。

例：県内10箇所で開催された清掃活動「リフレッシュ瀬戸内」が行われ、延べ16,142人（平成23年～27年）の参加があり、約75tのごみが回収されています。



漂流ごみ回収活動（海面アダプト活動）

漁業者や海洋レジャー関係団体等がボランティアとして清掃美化活動を実施しています。

※アダプトとは？

活動団体として認定を受けた住民や企業が、道路や河川など一定区間を自分の養子と見なして、我が子に対するように愛情と責任をもって、定期的な清掃・美化活動を行うもの。

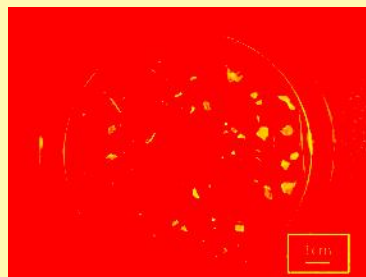


海底ごみの回収

漁業者が日常の操業で引き上げたものを持ち帰り、海底ごみステーションに集めた後、沿岸市等の協力により運搬・処理されています。

「マイクロプラスチック」の懸念

マイクロプラスチックは、ペットボトルやレジ袋などのプラスチックごみが、紫外線や波の力で壊れて、5mm以下まで細くなったもののことです。有害物質が付着しやすいことや魚などに誤食されやすいことから、新たな環境への懸念材料となっていますが、人体への影響など不明な部分も多く、様々な調査研究が進められています。細かいため回収は困難であり、なにより海ごみを発生させない取組が大切になります。



（環境省提供）

海岸漂着物処理推進法と県計画

国においては、平成21年に「海岸漂着物処理推進法※」を制定し海岸漂着物対策が図られており、併せて漂流ごみ、海底ごみ対策も推進しています。

県においては、平成19年度に「岡山県海ごみ対策県市町村連絡調整会議」を設置し、市町村と共同で海ごみ対策を検討する取組を進めており、さらに平成28年3月には「岡山県海岸漂着物等対策推進地域計画」を策定して、海岸管理者や民間団体、事業者、県民等と連携、協力しながら対策に取り組んでいます。

※正式名称「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（平成21年法律第82号）

私たちのポイ捨てが 瀬戸内海の家ごみに なっている!?

～海ごみはみんなの問題～

海ごみって何だろう？

漂着ごみ

海岸にたどり着いたり、捨てられているごみ

河川から流入したごみが海流や風の力によって海岸にたどり着いたもので、県内では特に島しょ部に多くの漂着ごみが確認されています

（「平成27年度 10m幅調査結果」岡山県）



漂流ごみ

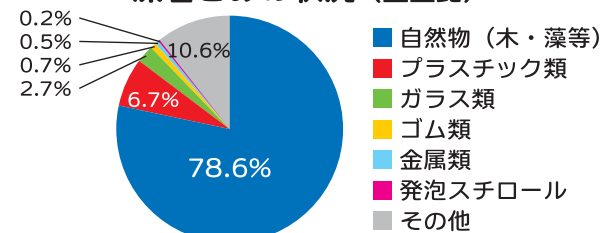
海に流れ出て海面を漂っているごみ

水島灘で実施された調査によると、分類別では、人工物が大半を占め、プラスチックフィルムの割合が最も高く、次に発泡スチロール、その他石油化学製品の順となっています。

（「平成26年度沿岸海域における漂流・海底ごみ実態調査」環境省）



漂着ごみの状況（重量比）

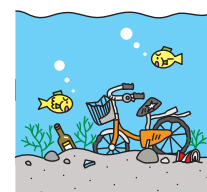


（「平成27年度組成分析調査結果」岡山県）

海底ごみ

海底に堆積したごみ

瀬戸内海の海底ごみは、他の海域と比較して多いと考えられています。岡山県海域では、回収可能な海底表層付近に約200tの海底ごみが堆積していると推計されています。



（「海底ごみ適正処理体制構築事業フォローアップ調査」平成26年岡山県）

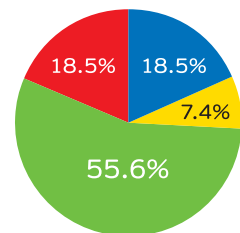
海ごみ問題は他人事ではない！？

瀬戸内海のごみの大半は日常生活から発生！

食品容器やたばこの吸い殻、ペットボトル、プラスチックや袋などの破片。内陸部で出たごみが、川を流れて海にたどり着いています。海ごみは私たちの暮らしから生まれたものであり、私たち一人ひとりのライフスタイルに密接に関連する問題なのです。



海ごみの発生源についての理解



- ほとんどの住民が理解している
- 半数の住民が理解している
- 一部の住民が理解している
- ほとんどの住民が理解していない

(「平成27年度海ごみに関するアンケート結果」岡山県)

ごみは川を流れて海へ

岡山県には、中国山地を源とする三大河川(吉井川・旭川・高梁川)など多くの川があり、瀬戸内海に注いでいます。

森・里・海はお互いに川でつながっていることから、**内陸部で発生したごみ**が川を通じて海にたどり着いて「**漂着ごみ**」「**漂流ごみ**」「**海底ごみ**」となっているのです。



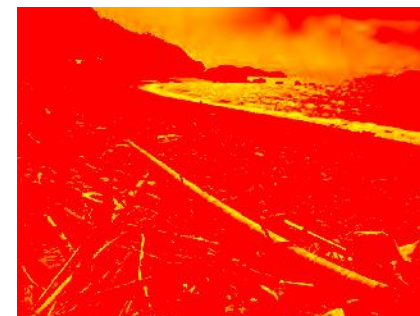
山陽女子中学校・高等学校 地歴部の声：

寄島沖で海底ごみの調査活動を行って、今年(平成28年)で9年目に入り、回収したごみは500kgを超えます。引き上げたものの中には、海とは関係のない土鍋や電化製品など「なぜここに？」と驚くような生活用品がたくさんあります。

たくさんの海ごみが 私たちの環境に影をおとしています

美しい自然景観の破壊

- ▶ 美しい自然景観が漂着ごみで悪化しています。瀬戸内の多島美、きれいな海水浴場にごみは似合いません。

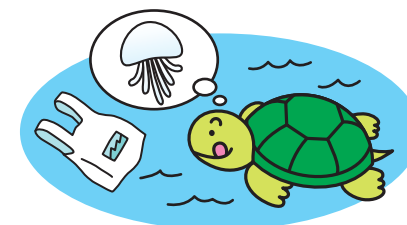


倉敷の自然海浜保全地区で清掃活動をしている方の声：

台風や大雨の後は川から流れてきたごみで海岸は一杯になります。海水浴や釣りで訪れる皆さんに気持ちよく過ごして欲しいので、15年以上住民や企業が清掃活動を行っています。

生き物への影響

- ▶ 魚にロープやシート状のごみが絡まったり、海の生物や海鳥が餌と間違えて食べるなど、悪影響がでています。



漁業への影響

- ▶ 日々の漁の際、網に多くのゴミがかかり、漁網が破れる被害もでています。

漁業者の方の声：

ごみで網が破れたり、魚とごみの選別に手間がかかるなど困っています。引き上げたごみは陸まで持ち帰り、海底ごみステーションに集めて処理してもらっていますが、なにより海に流れ込まないようにしてもらうことが大切と感じています。

船舶への被害 ▶ 船舶との衝突、スクリューへの巻き込み

回収・処理が困難 ▶ 水分・塩分・汚れが付いているため、焼却炉を傷める、再利用が困難

人への影響 ▶ ガラス破片や注射針、破れた空き缶など、不衛生・危険

海ごみをなくすために私たちにできること

ごみの持ち帰りなど正しい処理を行い、ごみ自体を減らしましょう！

海岸でできること

海水浴や花火で出たごみは、必ず持ち帰る。
ポイ捨て厳禁。

山や川でできること

キャンプや釣りで出たごみも、必ず持ち帰る。
流れたごみは、海ごみとなって回収が大変。

日頃から気を配ること

使い捨ての習慣を見直して、ごみ自体を減らす。
→マイバックを持参してレジ袋を減らすなど



河川・海岸での清掃活動に積極的に参加して、ごみを減らしましょう！

岡山県内では、多くの地域団体やボランティア団体が河川や海岸等の清掃活動を実施しています。こうした活動に参加するなど、海ごみについて一緒に考えてみませんか。